



長盲120周年記念通信

NO.1 (家庭・職員配布)

令和2年5月22日

長野盲学校

120周年記念事業実行委員会

1900年(明治33年)に「長野盲人教育所」として開所した長野盲学校は、創立120周年という記念の年を迎えました。現在、新型コロナウイルス流行の影響で、世界中で「日常」が失われています。その影響は本校の記念行事にも及び、運動会やリチャードさん記念コンサートなどの開催を延期することになりました。とても、残念です。

さて、昨年度までは、折に触れ、準備状況などお伝えしてきましたが、「長盲120周年記念通信」として、120年目の長盲の様子や記念事業についてお知らせしていきたいと思えます。

1900年(明治33年)ころ*120年前の様子*



1900年4月15日、長野盲学校が開所した日から11月15日まで、遠くフランスでは、パリ万国博覧会が開催されました。5月14日からは、パリ五輪が始まりました。この大会が、第2回夏季オリンピックとのことです。(東京2021は第32回です。)

1900年の日本の年表には、「1月：東京市がペスト予防のため鼠の買い上げを開始／1匹5銭」「5月：皇太子嘉仁(後の大正天皇)ご結婚」

「9月：夏目漱石が大日本帝国文部省留学生として英国留学」「9月：津田梅子により女子英学塾(後の津田塾大学)開学」「12月：福澤諭吉の提案で、翌年にかけて、慶應義塾生らと19世紀・20世紀送迎会を開催」など、歴史の教科書で見聞きした出来事や人物が並んでいます。

上の写真は、1900年の東京・銀座の様子です。おそらく、5月の嘉仁皇太子のご結婚のお祝いをしている様子だとのことです。今の銀座とは全く違う風景ですね。

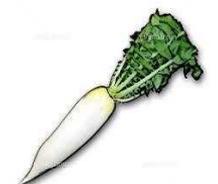
農業から工業中心の国に変わろうとしている時代。自動車は、まだ実験段階で、道には路面電車や人力車が行き来していました。郵便では、飛脚が活躍していました。



電気やガス、水道は家庭には届いていないので、井戸から水を汲み、薪や炭を燃やして食事を作り、あんだんで明かりを取っていました。テレビ、冷蔵庫、洗濯機は、ありませんでした。



ほぼ輸入品はない時代なので、ブロッコリーなど外国の野菜はありません。八百屋には、路地で作った、その季節の野菜や果物が並びました。農薬も添加物も少ない時代でした。





職員室の前の壁に「120歳おめでとうコーナー」ができました。昨年度、幼稚部、小学部、中普部のみなさんから「長盲って、どんなところ?」「長盲の好きなところ」を教えてもらった時の模造紙が貼ってあります。



これらの、たくさんの言葉や想いを集め、120周年記念ソング

ありがとう おめでとう
が完成しました。町田先生（幼稚部）と清水先生（中普部）が素敵な曲に仕上げてくださいました。様々なシーンで、みんなで歌っていきたいと思います。ぜひ、覚えてくださいね。



3月の休校前に、120周年記念事業にかかわるご寄付のお願いをさせていただきました。大変な状況の中、恐縮なのですが、ご協力いただけますと幸いです。（文責：柳澤）

120周年記念ソング

ありがとう おめでとう

私たちの上に 青空広がる
ベランダから見える きれいな山々
校舎の中に すずの音（ね）が鳴る
響き渡る歌声 楽しい笑い声

おいしい給食 みんなが友だち
笑顔がいっぱい すてきな仲間

ありがとう ありがとう 長野盲学校
どんな時も 優しく 温かく包んでくれる
おめでとう おめでとう 長野盲学校
この地から 新たな一歩を 踏み出していく

離れていても 絆は強く
互いに助け合い 支え合ってる

ありがとう ありがとう 長野盲学校
どんな時も 優しく 温かく包んでくれる
おめでとう おめでとう 長野盲学校
この地から 新たな一歩を 踏み出していく

この地から 新しい一歩を 踏み出していく



いつもなら、この桜の木の下で、歌を歌ったり、寝っ転がったりして、満開の花を楽しむのですが、今年は、校庭の隅で、ひっそりと花を咲かせていました。昭和27年に長野盲学校が現在の地に建ち、29年に校庭が新設されたとのこと。早く賑やかな学校になることを桜が待っているかのようでした。